

寒波到来 水道管の凍結対策は万全ですか

1 月から 2 月は水道管の凍結事故が多発します

気温がマイナス 4 度以下になると、水道管が凍結して水が出なくなったり、水道管やメーター器が破裂したりします。メーターから家側の水道管は個人の持ち物です。凍結が原因で水道管を修理するときの費用は、個人負担となります。寒波の到来で水道管の凍結が予想されるときは、凍結事故を防ぐための対策を事前におきましょう。

■凍結しやすいのはこんな場所

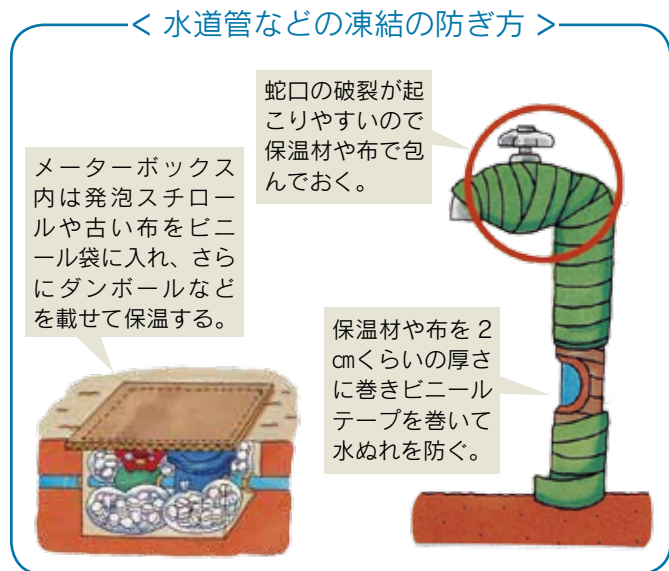
▷水道管がむき出しになっている▷水道管やメーター器が風当たりの強い北向きにある▷家の外にある蛇口

■水道管の凍結を防ぐための方法

▷屋外のむき出しの水道管は保温材（スポンジ、発泡スチロールなど）で覆うか、身近にある布きれや毛布を巻き、さらにビニールテープなどを巻いてぬれないようにする▷メーターボックス内のメーター器は保温材で包むようにする。このとき、保温材はぬれないようにビニール袋に入れておく

■水道管が凍結したときの熱湯は禁物

▷水道管が凍結したときは、凍結した部分をタオルなどで巻き、ぬるま湯をゆっくりかけて気長に解かす。いきなり熱湯をかけると水道管のひび割れや破裂が起きる恐れがある▷凍結した水が解けて流れるときに、水道管に付いたさびなどがはがれてきたときは、しば



らく水を流し続け、濁りが取れてから使用する

■水道管が破裂したときはすぐに止水栓を閉める

▷水道管や蛇口などが破裂したときは、止水栓を閉めて破裂した場所に布かテープをしっかりと巻きつける応急処置をした後で、市指定給水装置工事店に修理を依頼する▷メーター器が破裂したときは、市水道課にすぐに連絡する

問い合わせは、市水道課（☎ 77・8594）まで。

25 年度雇用予定の臨時・嘱託職員を募集

希望者は 2 月 12 日（火）までに人事秘書課に申し込みを

市は平成 25 年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までの間に雇用する、臨時職員と嘱託職員の希望登録者を募集します。雇用は登録者の中から必要に応じて行いますので、登録しても雇用されないこともあります。

■募集期限 2 月 12 日（火）まで。その後も必要な場合は、随時受け付けます。

■受付時間 午前 8 時 30 分から午後 5 時まで（土日、祝日を除く）。

■申込方法 市販の履歴書に写真を貼り、市人事秘書課（市役所柳川庁舎 3 階）に必ず本人が持参してください。申し込みの時に面接します。

■登録の有効期間 平成 25 年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までの 1 年間

■応募資格 職種によって資格や免許が必要な場合があります。

■職種 事務職、保健師、看護師、栄養士、司書、教員補助員、公民館職員、登記事務、レセプト点検員、水路清掃作業員、発掘調査整理作業員、調理員など

■勤務時間 市役所は月曜日から金曜日、午前 8 時 30 分から午後 5 時まで。職種や勤務場所によっては、土曜日や日曜日の出勤があり、勤務時間も変わることがあります。

■賃金 日額 6000 円（職種、勤務時間により異なる）

■雇用期間 臨時職員 6 か月以内、嘱託職員は 1 年以内。ただし更新する場合があります。

■その他 社会保険と雇用保険があります（雇用期間によって加入できない場合もあります）。雇用期間中は、原則としてほかの仕事はできません。

問い合わせは、市人事秘書課人事係（☎ 77・8403）まで。

感染症に注意して冬を健康に過ごそう

インフルエンザウイルスとノロウイルスの感染に細心の注意を



インフルエンザウイルス

人混みを避け帰ったら必ず手洗いとうがい

インフルエンザは、38 度以上の発熱が突然起こり、頭痛や関節痛、筋肉痛、全身のだるさを伴うのが特徴です。潜伏期間が短く感染力がとて強いので、流行すると一気に患者が増えます。インフルエンザの感染は、患者のせきやくしゃみに含まれるウイルスを吸い込んだり、ウイルスが付いた手で鼻や口を触った結果、粘膜を通して体内に入り込んだりして起こります。

インフルエンザから身を守るためには、ウイルスを体内に入れないことが重要です。あわせて、ウイルスに感染しても発症させない抵抗力を身に付けておくことも大切です。

インフルエンザにかからないために

■外出後は手洗いとうがいを

手洗いは感染予防の基本です。外出後は水を流しながら、せっけんを使って手を洗いましょう。また、うがいはインフルエンザだけではなく、ほかの感染症に対しても有効です。必ずしましょう。

■適度な湿度を保つ

空気が乾燥すると、のど粘膜の防御機能が低下します。乾燥しやすい部屋では加湿器を使って、50%から 60%程度の適切な湿度を保ちましょう。

ノロウイルス

十分な食材の加熱と塩素系漂白洗剤で消毒

ノロウイルスによる感染性胃腸炎の流行がまだ続いています。これらのウイルスに感染すると、激しく吐いたり下痢を繰り返したりすることで、脱水症状を引き起こしやすくなります。体力のない乳幼児や高齢者が感染すると生命が脅かされることもあります。家庭内の感染を防ぐためのポイントをお知らせします。

■きちんとした手洗いが予防の第一歩

トイレの後や調理の前、食事前に、水を流しながらせっけんで十分手洗いをしましょう。二次感染を防ぐために、タオルの使いまわしは避けてください。

■食材は十分に加熱する

ノロウイルスは、85 度以上で 1 分間以上加熱しないと、感染力が失われれないといわれています。調理するときは十分に加熱しましょう。

■人混みを避ける

インフルエンザが流行したら、人が多く集まる場所に、高血圧や糖尿病などの基礎疾患がある人や高齢者は外出したり、乳幼児を連れて行ったりしないようにしましょう。どうしても外出しなければならないときは、マスクを着用して短時間で切り上げてください。

■十分な休養と栄養バランスのとれた食事を

適度な運動を行い、十分な睡眠時間を取りましょう。食事は栄養の偏りがなく、バランスのいい食生活を心がけましょう。

インフルエンザを広げないために

■せきエチケットを守る

せきエチケットは、「せきやくしゃみにウイルスが含まれているので気を付ける」ということです。せきなどをするときは、次のことを心がけましょう。▷ほかの人から顔をそらす▷ティッシュなどで口と鼻を覆う▷せきなどが出ている間はマスクを付ける

■ほかの人にうつさない

家族や自分がインフルエンザにかかったら次のことを心がけ、家庭内をはじめ職場や学校などで、ほかの人にうつさないことが大切です。

▷部屋を積極的に換気する▷せきが出るときはマスクをする▷患者と接するときはマスクをし、その後、手洗いをする▷熱が下がっても 2 日間は自宅で療養する

【問】市健康づくり課健康係（☎ 77・8536）

■調理器具の消毒も忘れずに

まな板や包丁、スポンジ、ふきんは使った後に必ず消毒しましょう。ノロウイルスなど感染性胃腸炎を引き起こすウイルスを消毒できるのは、塩素系（次亜塩素酸ナトリウム）の漂白洗剤に限られています。また、調理する人に下痢の症状があるときは、直接、食材に触れることは避けてください。

■ウイルス感染者の介護は徹底した感染予防を

感染性胃腸炎の患者が吐いた物や排せつ物を処理するときは、使い捨てのマスクやゴム手袋などを着用し、紙タオルなどで取り除いてください。取り除いた汚物や処理に使ったマスクやゴム手袋は、まとめてビニール袋に入れ密封します。患者が床などに吐いたときは速やかに取り除き、必ず乾かないうちに塩素系の漂白洗剤を使って消毒してください。このときに注意することは、吐いた場所の外側から中心に向かって浸すようにふき、ウイルスを広げないことです。

【問】市健康づくり課健康係（☎ 77・8536）